

増税目前の「街角景気」、現状指数は過去最高に(日本)

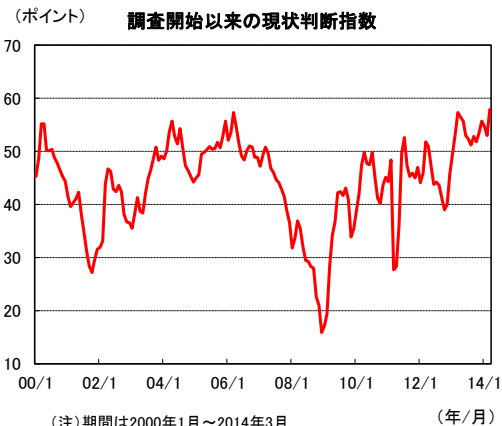
1. 「街角景気」とは？

内閣府が毎月実施する「景気ウォッチャー調査」で把握できます。「街角景気調査」とも呼ばれるこの調査は、タクシー運転手、コンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象(ウォッチャー)です。算出された指数から好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

2. 最近の動向

3月の「景気ウォッチャー調査」(調査期間3月25日～31日)では、「現状判断指数」が前月比+4.9ポイントの57.9ポイントとなりました。2000年1月の調査開始以来の最高水準です。3月は指数が上振れる傾向があるとは言え、増税前の経済活動は活発だったようです。

街角の声には、「家具、家電、敷物などの伸びが著しい。化粧品、高級衣料・雑貨、美術、貴金属、時計、眼鏡も好調(九州の百貨店)」、「増税を前に月を追って荷動きが活発化(東海の輸送業)」、「来店客、販売量ともに増加。冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどが好調(南関東の家電量販店)」といったものがありました。



3. 今後の展開

2～3カ月先の見通しを示す「先行き判断指数」は前月比▲5.3ポイントの34.7ポイントと、大きく低下しました。内閣府は景気の基調判断を「緩やかに回復している。また、消費税率引上げに伴う駆け込み需要が強まっている。なお、先行きについては、駆け込み需要の反動減等の影響が見込まれる」としました。

先行き判断指数は、震災があった2011年3月以来の低水準となりました。しかし、急落は3月の消費意欲が想定以上に堅調だった反動という側面もあります。こうしたなか、4月以降の消費が懸念されたほど消費税増税の影響を受けない可能性も意識され始めました。例えば、「住宅」分野では、住宅ローン減税が拡充され、影響は軽減される見込みです。また、生活必需品の買い込みも、「1997年の増税時とは違い、影響は2カ月ほど(北関東のスーパー)」との指摘が聞かれます。

総じて、増税前の反動減に加え、今年のゴールデン・ウィークが日並びに恵まれなかったことなども踏まえれば、4月～5月の国内消費には足踏み感が見られる可能性があります。一方、夏にかけては勤労者が賃上げやボーナスの増額などで、景気回復から賃金への好循環を実感する機会も増えそうです。消費税増税の影響が一時的となり、今夏にかけて「街角景気」も熱を帯びてくるよう、期待したいところです。

弊社マーケットレポート

検索!!

2014年04月08日【キーワード No.1,304】株高で「家計の金融資産」は過去最高を更新(日本)

2014年03月11日【デیلیー No.1,820】最近の指標から見る日本経済(2014年3月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意(リスク、費用)】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等(外貨建資産には為替変動もあります。)の影響により上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、投資信託は預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

◆直接ご負担いただく費用…申込手数料 上限3.78%(税込)

…換金(解約)手数料 上限1.08%(税込)

…信託財産留保額 上限3.50%

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用…信託報酬 上限年 2.052%(税込)

◆その他費用…監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用(それらにかかる消費税等相当額を含みます。)、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、予めその上限額、計算方法等を具体的には記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由により予め具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託(基準日現在において有価証券届出書を提出済みの未設定の投資信託を含みます。)における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面等を必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

[2014年4月1日現在]

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。



三井住友アセットマネジメント株式会社